

令和2年環境生活委員会 開催状況

開催年月日 令和2年12月10日(木)
 質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ委員
 答弁者 自然環境担当局長 小林 隆彦
 自然公園担当課長 小島 宏

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 エコツアーリズムについて</p> <p>(一) 本道におけるエコツアーリズムの現状について</p> <p>北海道と言えば自然環境と言われますが、実はエコツアーリズムの組織的、地域的な取組は大変遅れていたと言えます。知床においても、道の存在感が乏しいことが指摘されつつも、クマとの共生や、保全と活用のバランスなどエコツアーリズム推進方針が策定され、近年になって弟子屈町が北海道ではじめて、エコツアーリズム推進地域の認定を受けたと承知しています。</p> <p>これらのことが、国立公園満喫プロジェクトが阿寒摩周国立公園に決まった要因になっていると思います。道としては、北海道におけるエコツアーリズムの推進状況をどのように捉え、課題をどのように把握し、今後、どのように推進していく考えか伺います。</p> <p>(二) 阿寒摩周国立公園の満喫プロジェクトについて</p> <p>環境省が主体となって進めていると承知をしていますが、現在の状況はどのようになっている、道としてはどんな役割、連携をもっているのか伺います。</p>	<p>(自然公園担当課長)</p> <p>本道におけるエコツアーリズムについてであります。エコツアーリズムは、自然環境や伝統的な生活文化といったいわゆる自然観光資源を損なうことがないよう、知識を有するガイド等の案内などにより、利用者が知識や理解を深め、体感していただくもので、観光振興や環境の保全に関する意識の啓発にも結びつきますことから、道内各地域において地元事業者・自治体などが中心となり、様々な取組が展開されております。</p> <p>一方で、こうしたエコツアーリズムに関連する活動の一部には、安全性や自然環境への影響などが懸念されるものもございまして、特に、自然公園など自然環境の保全が重視される場所で実施されるものに関しましては、自然環境への影響など実態把握や監視も必要と考えております。</p> <p>エコツアーリズムは、本道の豊かな自然環境を損なうことなく、その魅力を体感できますことから、道といたしましては、その趣旨を踏まえ、適切に実施されている活動をホームページにより情報発信いたしますとともに、エコツアーリズム推進のための国の交付金制度についても事業者などに対し助言するなど普及に努めてまいります。</p> <p>(自然公園担当課長)</p> <p>阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトについてであります。阿寒摩周国立公園では、世界水準のナショナルパークとしてブランド化を図るため、平成28年に実行計画となる「ステップアッププログラム」を策定し、ツアーリズムに関しましては、自然環境や伝統文化を保護・維持し、本来のまま体験していただくため、原生的な自然を開放することや、高品質・高付加価値のインバウンド市場をつくることを基本的な考え方とし、案内標識の多言語化やトイレのユニバーサル化など、利便性の向上に努めるとともに、入山規制区域でのガイド付き限定トレッキングツアーやマリモ観察ツアーなど、自然環境の保全を前提とした利用プログラムの開発など、地域と一体となって取組を推進してきたところでございます。</p> <p>道では、関係機関や地元自治体、関係団体などにより設置したプロジェクト推進のための地域協議会の場などを通じ、幅広く意見交換を行い、地域とともにツアーリズムの推進について検討にあたってきたところであります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 阿寒摩周以外の国立公園、国定公園の取組について</p> <p>決算委員会でも若干の議論があったと承知をしていますけれども、私が危惧するところは、確かに切実なお声ではあると思うんですけど、ハード面の要望が地域から多く、そこがとても不安に思っております。そもそも、自然環境にあふれているが故に欧米の基準に達するようなエコツーリズムの基準であるとか、ガイドの養成などが遅れていることは否めないのではないかと考えています。</p> <p>このコロナ禍で、ある意味、準備期間が用意されたという意識で、今までは大量に団体のお客さんが来るのに対応して、木道を準備しなければいけないとか、ゴミをどうするかということだったと思いますが、むしろ、お客さんをいい意味で選んでいけるような、阿寒摩周以外の国立、国定公園地域においてもエコツーリズムの推進について、より強く取り組むべきと考えますが、見解を伺います。</p> <p>三 エコツーリズムからアドベンチャートラベルへの展開について</p> <p>(一) アドベンチャートラベルについて</p> <p>今まで環境生活部などが地道に取り組んできたエコツーリズムをさらに、アドベンチャートラベルが知事公約でもあるということのを契機に、展開していくべきではないかという視点で伺いたいと思います。知事公約でもあったアドベンチャートラベルサミットが来年9月に予定されています。欧米を中心として、72兆円市場とされておりまして、例年であると800人規模の影響のあるアドベンチャートラベル観光事業者・関係者が集まる予定になっています。アドベンチャートラベル関係者の特徴は、サスティナブルツーリズム、持続可能な観光への意識が高いことです。ペットボトルの飲料は飲まないし、日本の過剰包装は賛同しない意識の高い人たちで、自然環境にもどうやって負荷を与えないで、持続可能な観光をするかというところをすごく意識します。その人たちに北海道の観光事業者の観光プログラムだけでなく、日本の観光と違って地域を歩きますから、地域の姿がどう見られるかは、これからの北海道の自立した経営というところでいいますと、皆さんが提唱する地域循環共生圏に大きく影響する課題だと私としては思っている訳であります。</p> <p>私の認識としては、経済部を中心として進められている現在のアドベンチャートラベルの推進において、このサスティナブルツーリズム、持続可能な観光の基準をしっかりと地域として作っていく対応は鈍いものと危惧しています。アドベンチャートラベル推進において、経済部とどのように連携をもっているのか、また、環境生活部としてどのような役割を果たすべきと考えるか伺います。</p>	<p>(自然環境担当局長)</p> <p>国立公園等でのエコツーリズムの推進についてでございますが、道内では、現在、阿寒摩周国立公園のほか、支笏洞爺国立公園におきましても、満喫プロジェクトに準じた取組を展開しており、関係機関などが連携して自然体験プログラムの開発や、地域で実施されている自然体験活動の情報収集・発信に取り組んでいるところでございます。</p> <p>現在、新型コロナウイルス感染症の蔓延を防止するため、国際間の往来が困難となっており、また、国内での旅行も断続的に制限がかかる中ではありますが、今後を見据え、他の自然公園におきましても、自然環境を損なうことなく、国内外からの多くの利用者に自然の魅力を堪能していただくためエコツーリズムを推進していく必要があると考えており、満喫プロジェクトをモデルとして公園の新たな魅力の掘り起こしや磨き上げ、受入れ環境整備や情報発信の強化に取り組みますとともに、新たな自然体験プログラムの開発やガイドの育成など、地域や関係機関が主体となった活動を推進してまいります。</p> <p>(自然公園担当課長)</p> <p>アドベンチャートラベルの推進についてであります。本道は、広大で豊かな自然、アイヌ文化や縄文文化といった地域資源、多様なアウトドアアクティビティーを楽しめる環境、さらには食や温泉などの魅力あるコンテンツに恵まれており、道では、アドベンチャートラベルを推進するため、経済部を中心にワールドサミットの誘致や様々な媒体によるPRやセミナー、ガイド育成など受入れ体制の整備に取り組んでおり、当部としても自然公園や文化活動に関する情報など、構成要素となり得る資源や取組等について情報を共有しているところであります。</p> <p>当部といたしましては、自然公園を始めとした本道の優れた自然環境を持続的に活用できますよう、また、我が国の先住民族であるアイヌの方々や文化などを国内外の多くの方々に体感していただけますよう、経済部と連携して取り組んでまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(二) エコツーリズムとアドベンチャートラベルの差異の認識について</p> <p>旧来の観光事業面に寄り添う連携の取り方ではいけなくて、このアドベンチャートラベルは一貫して、事業として北海道運輸局がリーダーシップをとって進めてきておりまして、道の存在価値が非常に弱いと感じています。私としては、広域自治体である道としての役割は、エリアごとの、例えば国立公園、国定公園を一つのモデルとしてしっかり高い環境基準を観光プログラムや観光事業者・宿泊事業者に対して打ち出していくことだと思っております。</p> <p>一つの事例としては、阿寒で既に取り組もうとしているところなのですが、G S T C、Global Sustainable Tourism Council、世界の持続可能な観光の基準の認証機関がありまして、ここの認証機関の特徴は、宿泊事業者や、あるいは、地域が自分たちで選定して、手を上げられる。手を上げるのもこういう目標を掲げており、私達は今ここの段階ですと表明することが認証の条件になっており、このアドベンチャートラベルとGSTCはセットとなっている。そこの部分を経済部だけに任せていると非常に弱いと私は危惧している訳です。</p> <p>そこで改めてここで、エコツーリズムとアドベンチャートラベルの差異について認識してもらうために伺う訳ですけれども、前段にエコツーリズムについて、これまでどうなっていましたかと聞いてきました。世界でこうなっているから、あそこでやっているからやっつけてではなく、北海道で既にやってきた、積み上げてきたことに価値があるから、聞いてきているのですけれども、従来のエコツーリズムと農政部主体で進んだグリーンツーリズムなどが包括して、さらに付加価値の高くなったツーリズムが私はアドベンチャートラベルであると考えているのですが、まだまだ、北海道においてはアドベンチャートラベルと聞いても、日帰りの数千円の例えばラフティングだったり、要は北海道の自然資源を消費するプログラムになっている。</p> <p>このアドベンチャートラベルの平均的な旅パターンは、平均7～8日滞在して、移動もトレッキングであったり、乗馬であったり、カヌー、サイクリングなども取り入れて、知床で起きているような観光スタイル、車の渋滞などは、解消されたり、あるいは、トレイルにするので、一局集中を防げる利点もある訳です。</p> <p>国立公園・国定公園とも保全と活用が求められる中で、環境側にも意識改革が必要であり、このエコツーリズムからアドベンチャートラベルへの意識改革が私は必要だと考えますが、このエコツーリズムとアドベンチャートラベルの差異をどのように認識し、その認識を踏まえて、どう対応すべきと考えるか見解を伺いたいと思います。</p>	<p>(自然環境担当局長)</p> <p>エコツーリズムとアドベンチャートラベルについてでございますが、エコツーリズムは、自然環境や伝統的な生活文化といった自然観光資源を保全しながら体感する活動であり、社会貢献やサステナビリティを重視することが特徴である、一方、アドベンチャートラベルは、「アクティビティ」、「自然」、「異文化体験」の3つの要素の内、2つ以上で構成される旅行形態とされておりまして、レジャーとしての観光の側面を持っているものと認識しております。</p> <p>今後は、エコツーリズムの考え方の下、道内各地の自然や歴史、文化などの多様な地域資源の保全に努めつつ、アドベンチャートラベルも視野に入れ、地域と連携しながら、利用者のニーズに応じたアクティビティの開発を推進するとともに、阿寒摩周国立公園で進めている「満喫プロジェクト」の成果を他の自然公園にも展開するなど受入れ環境の整備に努め、本道の地域資源の魅力の磨き上げと発信の強化を図ってまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(指摘)</p> <p>文化面のことも含めてアドベンチャー・トラベルの認識についてご答弁いただいたことは評価したいと思います。さらに指摘したいことは、環境について高い基準を誰が打ち出していくのかということと環境生活部しかないと思う訳で、例えば、縄文の世界遺産やアイヌ文化のことを、皆さん、発信していこうとおっしゃっていましたが、そこが持っている世界観とそういうアクティビティとか施設を見たお客さんたちが、地域に行ったら普通にプラがあります、化石燃料の車が走り放題ですという世界観で本物のおもてなし、「観光立国北海道」と言えるのかどうか、という岐路にあると思っています。</p> <p>今回は指摘とさせていただきますけれども、私としては、このGSTCの基準をしっかりと道としても、地域を限定してモデル的にでもチャレンジしていただきたい。特に、国立公園・国定公園については、目標設定を公園入込数でなく、そういう基準を掲げた地域がいくつあるのかということと道の基準にするとか、指標設定のあり方を根本から見直していただきたいと思えます。</p> <p>さらに加えれば、カーボンゼロという視点でいけば、これもずっと議論させていただきましたけれども、長野県がリゾート地に再生可能エネルギーを集中することにより、「RE100」という、これは世界認証ですけれども、持続可能な観光リゾート地であると世界に向けて宣言している訳です。北海道、何をやっているんですかという形になりますけれども、いいことをやるのであれば、2番目でも3番目でもいいので、マネをしてくださいということです。環境基本計画に地域循環共生圏という考え方を入れた訳ですから、ワンポイントでもいいから、環境生活部の事業で実施しないで、農政部や経済部に物言い出来ないですよ。そこを是非しっかりやっていただくことを指摘申し上げて、私の質問を終わります。</p>	